

現在までのデマンドタクシーの利用状況は

公共交通の充実化を

問 循環バス多古ルート、久賀ルート廃止後、中学生の通学時ににおけるデマンドタクシーの実証運行が開始されました。現在までの利用状況、また常磐・中ルート廃止後の対応はどのように考えていらっしゃいますか。

町長 実証運行を開始した本年1月からの状況では、その利用が進んでいるものと捉えています。常磐・中ルートの廃止後、運転免許を持たない利用者には、デマンドタクシーを利用していただけるよう周知を図ります。また中学生については、実証運行の対象に加える予定です。

問 多古高校生、また高校生以下の通学時以外でのデマンドタクシーの利用についての検討はありますか。

町長 地域公共交通会議の中で、本来利用すべき高齢者や身体の不自由な方の利用を阻害するおそれがある趣旨の意見が交わされたことを受け、高校生以下は利用対象としていません。現在、地域公共交通計画を策定するにあたり、町

民2000人を対象としたアンケート調査等を実施しており、これらの調査結果等を踏まえ、引き続き検討してまいります。

問 デマンドタクシー以外の多古町独自の公共交通の検討はしていますか。

企画政策課長 他の自治体で行っているような民間企業や地域の方々の協力により運行する、いわゆる共助による取り組みも考え方のひとつとして必要ではないかと思っています。地域公共交通会議や町民の皆様のご意見を伺いながら、今後も検討してまいります。



利便性を考えて

行橋 千春 議員

所要時間 63分



健康であり続けるためには

問 コロナ感染症が5類に移行されてから、高齢者の方々の過ごし方はどのように変わったとお考えですか。また、以前のように活動するには、どのようにしたらよいとお考えでしょうか。

保健福祉課長

コロナ禍で、高齢者の方々の集いの場が減り、元の状態にというのは、時間がかかると思います。町では、体操に用いる音声ガイドを作成して、少人数でも活動していただけるようにしたいと思っています。また、高齢者の方が元気に生きがいを持って生活していただくために、短期間にリハビリテーション専門職が関わり、元の生活を取り戻すための取り組みを行う、短期集中予防サービスを進めていきたいと考えています。

地域おこし協力隊、移住コーディネーターの活動は

答 二つが連携し、移住相談、農産物PR、販売をする予定です

安心して暮らせる町にするため

問 消防団員の負担軽減のため、今の時代に見合った取り組みをどうお考えですか。

町長 町では報酬や手当の処遇改善のほか出初式の簡素化や夏季訓練の開催時期、参加人数の見直しで負担軽減を図ってまいりました。今後も常備消防と消防団本部と協議を進めながら積極的に活動環境の改善に努めてまいります。

問 運転免許制度改定により若い団員が自動車ポンプ車の運転をすることができません。資格補助をするお考えはありますか。



活動しやすい環境を

総務課長

軽積載車につきましては全車オートマ車への更新を計画的に進めております。準中型免許の取得費用に対する補助につきましては、今後の自動車ポンプ車自体のあり方も含めて、対応策を研究し、協議を進めてまいります。

問 ドローンを活用した機能別消防団を立ち上げ活用すべきだと考えますが。

町長 香取広域市町村圏事務組合消防本部及び多古分署と検討してまいります。

総務課長

現在、消防本部に1台配備されていますが、常備消防職員が免許取得することで、活用できる体制を整えてまいります。また、消防職員以外の免許所持者確保の必要性につきましても、積極的に協議を進めてまいります。

問 団員負担軽減の為にIoT化で消防団アプリの導入を考えたみてはいかがでしょうか。

町長 香取広域市町村圏事務組合と十分に協議し、担当課においてもアプリの効果を研究、検討してまいります。

橋本 孝之 議員

所要時間 61分



農業から町に活気を

問 都市と農村の交流をグリーンツーリズム等で行ってきたが、どれだけの効果がありましたか。

町長 令和4年度は延べ247人の方に農業体験に参加いただき、半数以上がリピーターとなり交流人口、関係人口の増加につながりつつありました。また参加者と農業者を結びつけ、参加した後も商品の販売などにつながる仕組みづくりにも取り組んでいます。

問 地域おこし協力隊、移住コーディネーターの活動はどのようになっていますか。

町長 地域おこし協力隊5人は、まちづくり機構に所属し、各々の活動に取り組むとともに様々なイベントに参加し本町のPRを行っています。移住コーディネーターについては、移住促進の一環として農業体験を取り入れています。

問 町から家庭への訪問、またはサポートをされていると思いますが、高齢者の方々が外出するためには、どのようなサポートをしたらよいとお考えでしょうか。

保健福祉課長

高齢者の方々の外出支援について、現在のところ新たなものは考えておりません。町が行っている事業や、社会福祉協議会が行っているふれあい交流クラブ事業などもご案内しながら対応していきたいと考えています。

問 多古町は本主に子育て支援が充実しています。でも、高齢化が進んでいきます。どのようにしたら、住みやすい町になるとお考えですか。

町長

まずは、若者から選ばれる町、そして、高齢者の方々が生活に張りがあり、様々なサービスが受けられる体制を整えていくことが必要だと考えています。



住みやすい町を作るために

今後、地域おこし協力隊と移住コーディネーターが連携し移住相談と農産物のPR、販売をする予定です。

問 農村活性化活用の一つとして朝市や軽トラ市を開催してみてはいかがでしょうか。

企画政策課長

軽トラ市や朝市を企画していただくことは本当に素晴らしいと思います。このような企画を地域おこし協力隊やまちづくり機構と連携し、町側もバックアップして活気ある又ご高齢の方々が参加できるような仕組みを検討してまいります。

問 今後の農村活性化に向けて移住しながら結婚を促すお考えはありますか。

企画政策課長

婚活支援や結婚支援に興味をもたれている方々と意見を交わしながら、地域としてどういことができるのかを検討してまいります。



地域おこし協力隊による活動 多古第一小学校 放課後子ども教室